

特集・日本国実相顕現・鎮護国家・地上天国実現こそ生長の家の使命

生長の家大神なほ住吉大神の使命を問い直す——教団の暴論を糺す

構成・文責Ⅱ編集部



住吉大神を顕斎する鎮護国家出龍宮顕斎殿

●生長の家総本山の祭祀の重点を
「鎮護国家」から「世界平和」へ移す？

平成二十四年十一月二十日に開催された八ヶ岳教団やがだけ（宗教法人「生長の家」）の教化部長懇談会に「今後の国際平和信仰運動の展開について」なる文書が出席者に配布された。その前文を要約すると次のようになる。
「本部が森の中のオフィスに移転するに伴い各種行事の見直しを行い、次の三点が決定された。

①生長の家総本山の祭祀の重点を「鎮護国家」から「世界平和」へ移す。

②国際的に運動年度を統一し、森の中のオフィスゝの具体的計画（中・長期的ヴィジョン）にあわせて、新しい行事を導入し、従来の行事を整理する。

③世界平和実現に必要な「万教帰一」の象徴として、神像を国際本部（森の中のオフィス）に移設する。

さらにその翌々日の十一月二十二日、谷口雅春先生御生誕日記念式典において、谷口雅宣総裁は、次のような発言をし、ブログにも掲載した。

「雅春先生がこの生長の家総本山を建立され、そこに七つの燈台を建てられ、その第一番目の燈台に『天孫降臨皇御国成就燈』という名前をつけられたことの意味は…先生が私たちに託された願いは、『天の下ことごとくに神の御心が満ちひろがる世界が来ること』です。『日本に天皇制国家を樹立する』などと解釈することは全くの誤りであります」

●生長の家出現の意義を否定

この一連の誤った文書・発言の意味するところは、大変重大である。尊師谷口雅春先生は、龍宮世界から、鎮護国家の使命を十全に発動いただくために住吉大神のご出御を願って、この世界を浄化し天照大御神の御光を六合に照り徹らせる道を開き、日本国家を千万年安泰にする霊的礎を築くために住吉本宮を建立されたのである。その尊師の畢生の大事業

を真つ向から否定し、住吉大神の鎮護国家の使命を恣意的に廃して、「世界平和」に変えるなどということは、宗教的クーデターに等しく、生長の家出現の意義を完全に否定することになる。

なぜなら、谷口雅春先生は、生長の家の出現の意義について、こう述べておられるからである。

「人間神の子」を説く宗教は他にもある。肉体も環境も心の影」と説く宗教もある。万教帰一だから根本は同じである。だが、それでは、とくになぜ生長の家の出現したのか。生長の家の神は住吉大神である。その住吉大神が、なぜ今ここに、日本の国土にこの時期に現れ給うのか。そこが非常に大切なところである。

『古事記』に示されるごとく、住吉大神は天照大御神の御誕生の直前に現われられた。最後の宇宙浄化の働きとして、宇宙の大神が住吉大神と現れ給うたのである。天照大御神の御誕生とは、日本の実相の誕生ということである。日本なるものの魂が具体的に宇宙を照らす光となるということである。この直前に、最後の浄化の働きとして住吉大神が今ここに現れ給うたという、ここに生長の家の出現の真意があるのである。

ただ単に、人間は神の子であり、物質ではない。肉体はない。病気は治るといふ、それだけのことでない。

いのであって、天照大御神の光が宇宙に天照らすべく、天皇陛下の御稜威^{みいつ}を發現せしめて、日本の国を救い、世界を救うというところに、生長の家出現の本来の意義がある」(第十三回全国代表者会議のお言葉)

● 神の理念の最高顕現としての日本

そして、ここで指摘しておきたいのは、今回の教団の文書の背景にあるのは、日本なるものの^ゝの極めて皮相的な解釈である。それに比べ、谷口雅春先生は、実相世界に深く穿ち入り^{うが}「日本国家は神の理念の最高顕現」として、次のように説かれたのである。

「私は『生長の家』と云う大いなる団体を作つて、その主宰者^{しゅざいしや}となり、自分の団体の勢力を拡大したいとは思っていない。唯私の心の中には国家あるのみであり、人類あるのみである。ここに私は『国家』と『人類』との二つを同格に平列せしめて語つたが、私にとつては『日本国家』と『人類』とは同格なのである。日本国家が栄えることによつてのみ、人類は栄えるのである。『生長の家』で説く…実相とは無限莊嚴の組織体である。だから実相が顕現すると

は、無限莊嚴の組織体がこの世界に顕現しなければならない。そしてヘーゲルも云つたように『国家は最高の組織体』であるが故に、完全なる国家の顕現が実相の顕現であるのである。而して世界にありとあらゆる国家組織体のうち日本国家のみが最高完全の組織体である。(その理由はその中心^{すめらみ}が万古不易永遠に続いているからである。外国の国家のように中心さだまらず、時々交代するようでは最高完全の組織体とは云い難い)。それ故『日本国家』は神の理念の最高顕現であり、無限莊嚴の相^{すがた}の実相の顕現であるのである。而して『日本国家』が拡がり行くことは実相の顕現がひろがり行くこととなる。『日本国家』のために尽すことは『人類』のために尽すことになる。人動^{うご}もすれば『国家』的立場は一つの民族的執着の立場であり、人類的立場は一層高き普遍平等的立場であると思いたがろうとするのであるが、日本国家に於てのみ、国家的立場は人類的立場と完全に一致するのである。」(『明窓浄机』草創篇257頁原文正漢字正仮名遣い)

この^ゝ日本なるものを踏まえて、その教えを真つ向から否定し、いまだに生長の家と称する現教団、即ち「八ヶ岳教団」の暴論^{たふ}を糺し、真の生長の家の信仰を明らかにする。

真理の照射により闇を消す

「総本山の祭祀の重点を『鎮護国家』から『世界平和』へ移していいの

●超えてはならない一線を越えた

いよいよ来るべきものが来た、との思いを強くする。長年、谷口清超二代目総裁はじめ教団幹部及び一般信徒を問わず、多くの信徒が藁（わら）にも縋（すが）るような思いで期待してきた谷口雅宣氏の改心、谷口雅春先生の教えへの回帰、それが見事に打ち砕かれたのである。周囲の期待を完全に裏切り、谷口雅宣氏が青年時代から一貫して抱き続けてきた思想傾向に基づいて、遂に、誰の目にも明らかで、超えてはならない一線を越えたのである。

この冒頭の文書宣言の説明文は以下の通りである。「総本山建立当時の世界は米ソの冷戦時代であり、各国が軍備を増強し、自国の平和維持を目指した。そのため、生長の家は日本を護るため、『鎮護国家』を前面に出し日本の危機を乗り越えようとしたが、

今日の世界は、世界平和に目を背けて日本だけの武力増強で日本の平和や繁栄を実現することは不可能である。従って、『鎮護国家』という言葉を撤回し、『世界平和』を全面に出さなければならない。鎮護国家ではなく世界平和こそが住吉大神のご使命であり、そのことは谷口雅春先生の『鎮座降神詞』に示されている。このような考え方にもとづき、『日本の伝統的な形式を通じて』世界平和を祈る大祭と位置づけた。斎主は谷口雅宣氏であるが、参議長の代行も可能である」（要約）

●住吉本宮は鎮護国家を目的とするお宮

よくぞ「鎮座降神詞」を持ち出して自説の正当性を強調したものである。おそらくは、この「鎮座降神詞」には「鎮護国家」の言葉がなく、「世界」「世界平和」等の言葉があることから自説の補強材料として使用したのであろう。

これを牽強付会と言わずして何と言おう。そもそも「鎮座降神詞」とは、昭和53年11月21日の住吉本宮鎮座祭で、住吉本宮の「御神体」である「護国の神剣」を奉安するときに、谷口雅春先生が本宮御座所の内奥

で称えられたお言葉である。

そして、谷口雅春先生は本宮御座所から「鎮護国家ちんここくか出かしゆつりゆうぐうけんさいでん龍宮りゆうぐう顯齋けんさい殿」に移られて、今、住吉大神が住吉本宮の「御神体」である「護国の神劍」に、天降あもり給うた（地上に顕現し給うた）ばかりの住吉大神に「龍宮住吉本宮鎮座祭齋主祝詞」を奏上された。そこには何と記されているか。

「住吉大神を、かく実相世界の秩序に基いて顕齋けんさいし奉る所以ゆえんは、大神の本来の国家鎮護皇国護持の御使命を完全に発動され給わんことを希い、日本国土より、すべての妖雲暗雲を悉く祓はらい清め、天照大御神の御稜威六合に照り徹りて、神武天皇建国の御理想は実現せられ、八紘は一字となり、万国の民悉くその御徳を中心に仰ぎ奉りて中心帰一、万物調和、永久平和の世界を実現せんことを期し奉るがためなり」と。

ここまでではつきりと、住吉大神を「顯齋し奉る所ゆ以えん」が述べられているのであるが、さらに、谷口雅春先生は信徒に次のように語られた。

「鎮護国家ちんここくか、国家を鎮め護る、国家の安泰を護る、その目的である住吉本宮というものを建てるわけであって、吾々個人が御利益を得るために建てるので

はないのです。龍宮から住之江大神の御出御を願って、この世界を浄化して頂いて、天照大御神の御光を六合に照り徹とおらして頂く道を開いて頂き、日本国家を千万年安泰にする靈的礎いしずえを築くために建立する住吉大神本宮であって、吾々個人が御利益を貰うために拝むという、そんなお宮ではないのです。端的にいえば、鎮護国家を目的とするお宮であって住吉大神の御出御をお願いするための社である。それが「龍宮住吉本宮」であります」（「聖使命」紙昭和57年12月1日号）

以上の谷口雅春先生のお言葉から言っても、総本山は「鎮護国家」のために建立されたのである。これを、時の世界情勢や日本国内の政治情況に依拠し、建立の根本義を勝手に改変することは絶対に許されないのである。これは教えの無知あるいは意図的改竄かいざんから来ている。さらに国際情況の無理解がこのような荒唐無稽こうとうむけいな屁理屈へりくつとなっているのである。

●真理国家日本の実現を通して世界平和が実現

谷口雅宣氏及び教団本部は「鎮護国家ではなく世界平和こそが住吉大神のご使命」だという。ここに谷

口雅春先生の根本的な教えの無理解があらわれている。谷口雅宣氏は意図的に「日本」を抜いている。ストレートに住吉大神（できれば住吉大神とは言わずに抽象的な神と呼びたいところであろう）と世界を結びつきたいのである。

しかし、谷口雅春先生の教えとは、先の引用文からでも分かるように、実相世界にある「真理国家日本」「天皇国日本」の諸徳の反映が「現象日本」であり、現在の安倍自民党が総選挙で大勝した「地上日本」であり、この「地上日本」「現実日本」がいよいよ「実相日本」の諸徳が地上に光り輝き、その光り輝いた「日本」の力をもって、世界平和を導く、いや、地球の平和だけではなく、もっと大きな現象宇宙の隅々にまで照り徹って、すべてを平和にする、つまり光明化するのである。

谷口雅春先生の「世界平和」とは、実相世界の实相日本の地上顕現が成ってこそ実現するのである。実相を限りなく顕現している現象日本が、一国の力をもつて世界に向かって世界平和実現の行動を取るのである。これは、世界平和の思想として極めて具体的に、国家を無視した世界市民（コスモポリタン）的思想

でもなく、キリスト教や仏教のような世界平和に向けた政治的行動原理を持たない宗教思想でもなく、共産主義による世界革命思想でもなく、太古より繰り返されてきた大国の覇権主義はけんでもなく、一国の平和理念に従った国家的力をもって世界平和の実際の行動を取るのがある。それが日本の地上出現の使命なのである。

このような谷口雅春先生の教えを理解している者からみれば、いかに先の宣言と説明文が戯言たふごとにすぎないかは一目瞭然いちもくりょうぜんである。

以上の如く、「生長の家総本山の祭祀の重点を『鎮護国家』から『世界平和』へ移す」なる決定は、明らかに谷口雅春先生の総本山建立の教えとお心に背いており、もはや教団は生長の家とは何の関わりもない、生長の家とは無縁の、というより生長の家の教えに真つ向から牙きばをむいて否定し去ろうとする、本部を八ヶ岳に構える別宗教に成り下がったということである。

二、「国際的に運動年度を統一し、森の中のおフィスの具体的計画（中・長期的ヴィジョン）にあわせて新しい行事を導入し、従来の行事を整理する」項目の問題点

●総本山は閉山への道をたどるのか？

左頁の「森のオフィス移転後の行事一覧」をみていただきたい。11月19日代表者会議（森のオフィス）20日、自然体験プログラム、翌日（21日）から長崎の総本山で秋季大祭である。「龍宮住吉本宮大祭は生長の家の幹部が参列する最重要の祭」と一方で謳いながら、それとは全く矛盾した年間予定であり、教化部長をはじめとする教区幹部が多数参列できるはずがない。

しかも今後、「秋季大祭は近隣教区の信徒が参列し、11月22日の谷口雅春大聖師御生誕記念式典は、近隣教区の信徒に加え褒賞受賞者を招待して顕齋殿にて執り行う」という。これまでの盛大なみ祭の歴史を全く無視した、誠に淋しい秋季大祭になってしまふのである。これでは、尊師畢生（ひるせう）の大事業として建立された総本山を閉山に追い込む意図が隠されていると疑われても仕方がない。

●建国記念の日祝賀式の齋主は参議長が執行

衆議院選挙中にも、講習会等で反日政党の民主黨支持を訴えた総裁である。その思想が、齋主として執行する御祭の選択の基準になってもおかしくない。まず、「建国記念の日祝賀式」の齋主からはずれ、参議長が執行。宇治の盂蘭盆供養大祭においても、「自然災害物故者追悼慰霊祭」の齋主は務めても「精霊招魂神社大祭」では、参議長の代行を可能としている。誰の目にもよくわかる選択である。

●宗教的救いや慰霊を失った行事

東日本大震災発生日にちなんで生まれた「神・自然・人間の大調和を祈る御祭」。これには、四無量心を行ずる神想観（ニューバージョン）や人間智で書かれた「大自然讃歌」の一斉読誦の実態という説明はあっても、被災者への追悼（ついで）については一言の言及もない。これが八ヶ岳教団の実態である。つまり、神への純粹な信仰を失ったがために、「慰霊や救い」という宗教的感性までも失われているのである。



“森の中のオフィス” 移転後の行事一覧

行事名(祭典・式典・会議等)	斎主などをされる方	会 場
新年祝賀式 → 取り止め	—————	—————
建国記念の日祝賀式(2月11日)	参議長	“森の中のオフィス”
末一稲荷神社 初午祭(2月)	総裁先生 (参議長の代行可)	末一稲荷神社 (メディアセンター)
生長の家春季記念日・生長の家総裁法燈継承記念・聖魂祝福式典 (仮称: 3月1日)	総裁先生	総本山
※この行事に併せて生長の家評議委員会を別途開催する		
神・自然・人間の大調和を祈るみ祭 (仮称: 3月11日)	総裁先生	“森の中のオフィス” 霊的緑地
谷口輝子聖姉年祭(4月24日)	総裁先生 (奥津城へは参議長の代行可)	奥津城(多磨霊園) 他
全国幹部研鑽会・全国大会	総裁先生	未定
※この行事に併せて生長の家評議委員会を別途開催する		
谷口雅春大聖師年祭(6月17日)	総裁先生 (奥津城へは参議長の代行可)	奥津城(多磨霊園) 他
生長の家教修会(時期は未定)	総裁先生	未定
自然災害物故者追悼慰霊祭 盂蘭盆供養大祭本祭 精霊招魂神社大祭 全国流産児無縁霊供養塔供養大祭 末一稲荷神社大祭 (8月18日～8月19日)	総裁先生 総裁先生 総裁先生(参議長の代行可) 〃 〃	宇治別格本山 〃 〃 〃 〃
布教功労物故者追悼慰霊祭(秋分の日)	総裁先生	“森の中のオフィス” 又は本部練成道場等
拡大最高首脳者会(10月26～27日) 谷口清超大聖師年祭(10月28日)	総裁先生 総裁先生 (参議長の代行可)	“森の中のオフィス” “森の中のオフィス” (多磨霊園) 他
自然の恵みに感謝する収穫祭(10月28日)		“森の中のオフィス” 他
代表者会議(11月19日) (11月20日は自然体験プログラム等) 龍宮住吉霊宮秋季大祭(11月21日) 龍宮住吉本宮秋季大祭(11月21日) 谷口雅春先生御生誕日記念式典 (11月22日)	総裁先生 総裁先生(参議長の代行可) 〃 総裁先生	“森の中のオフィス” 〃 総本山 〃 〃

総裁先生が斎主・主宰者・議長等の行事…19回 総裁の命により参議長が代行可能な行事等…10回



森のオフィスに移設されてしまうご神像

「世界平和実現に必要な『万教帰一』の象徴として、神像を国際本部に移設する」との最高首脳者会の決定事項が11月20日の教化部長懇談会で報告された。その決定事項の内容は左の通りである。

●ご神像を芸術作品として森の中に移設!?

三、ご神像を芸術作品としてのみ扱う

神をも畏れぬ所業

——生長の家大神を環境保護の神様

にしているのか

「現在、原宿の本部会館に設置

されている神

像を以下の通

り、森の中の

オフィスに

移設する。

一、コンセプト

現在、原宿の本部会館に設置されている神像は、「七つの燈台の点燈者」を象徴する一つの表現として製作された歴史的な芸術作品である。「七つの燈台の点燈者」は、七つの燈台すなわち世界の宗教に燈を点ずる役割があることから、この神像を『万教帰一の象徴』として、森の中のオフィスに設置し、世界の各宗教が神・自然・人間の大調和の実現にむけて相互協力して前進することを祈る。神像は自然豊かな森を背景に設置し、神像の前に職員や来訪者が集まる広場を設け、自然の恩恵に感謝する祭りやイベント等の開催、晴天時の職員朝礼、農林作業前後の祈りを行うなどして、神・自然・人間の大調和を祈る」

聖なるものをことごとく貶めてきた総裁が、本部会館設立以来、生長の家の象徴であったご神像にいいよ手をつけたということである。

今、このご神像は、その意義を矮小化され、箱根の森美術館に設置されている彫刻のような扱いを受けて、神聖性と権威を貶められようとしている。

●霊視された神姿こそがご神像である

そもそも、このご神像は如何なる経緯で制作されたのであろうか。立教後、間もなく谷口輝子先生が初めて白髪のお翁の神様を拝され、それ以降、多くの信徒が誌友会の会場や遠く離れた地で神想観の実修中に同一の神姿を霊眼で見たといわれている。

そして、服部仁郎氏が、輝子先生の霊視された神姿の詳細を聴き、模型を造り、更に指摘をうけて何度も修正を重ねてご神像は製作されたのである。服部氏自身は神姿を見たことがなかったものの、天才的彫刻家の靈感によって製作されたのが、このご神像である。

それは、決して一人の芸術家の想像によって製作されたものではなく、まさに仏師が精魂傾けて仏像を作るのと同じように、研ぎ澄まされ、淨められた魂によって生み出されたものであった。

● 住吉大神を語らずして 万教帰一の象徴となるのか

この白髪のお翁の神姿については「終戦後の神示」で詳しく示されている。

「われは七つの燈台に火を点する者である。われは白髪のお翁である。白髪とは久遠永劫よりつづく無量寿の象徴である。われは彦火火出見尊が魚釣らず鉤を失い給いて憂い泣き給う海辺に來りて、尊を龍宮海に導きたる塩椎神である。塩椎神とは水火山之神の謂である。霊は水火山と顕れ、一切のものは水火山から生れたのである。われは霊の海、創造の神である。水即ち『おしめり』と、火即ち『ぬくもり』と『土』の働きとがあつて万物は生ずるのである。黙示録には『われはアルファなり、オメガなり、生と死との鑰を持って』と録されているのがそれである。われを単に海の神だと思ふな。龍宮海の神の如くあらわれているのはウミ(生み)の象徴であり、龍宮無限供給の神のシンボルである。われは一切の創造の神であるから無にして無尽蔵である。(中略) 住吉とは平和の理想境と云うことである。わが行くところ平和は來り、わが行くところに竜宮無限の供給は來るのである。キリストはわれの別名であるから、キリストを押し込めたのが可かぬのである。(後略)」「黙示録」にあらわれている白髪のお翁のキリストが水火山神・住吉大神と本来一つであることが示されている。そして住吉大神は日本の国が危急の時に顕れて

来られ、お護りになる神様である。

つまり、ご神像は、宇宙創造の神であり、宇宙淨化の神である住吉大神の象徴であることを、谷口雅春先生は説かれてきたのである。しかし、今回のご神像の移設に際し、この鎮護国家の使命を果たされる住吉大神には一切触れずひた隠して、ご神像を「万教帰一の象徴」だとして特化して強調し、信徒を間違った方向に誘導しようとしているのである。

まさに住吉大神が祀られている総本山を「聖地」でないと貶め、総本山から「鎮護国家」を外すのと同じ論法で、ご神像を単なる芸術作品として扱い、住吉大神の意義を無視する、神をも畏れぬ所業と言わざるをえない。

●物のうちにイノチを觀る生長の家

雅宣總裁の本心としては、おそらくご神像を壊したかったのであろう。ところが、存続を願う多くの信徒の声を無視できない状況になり、今回の森の中への移設になったと推察される。しかし、それは芸術作品として、かつてギリシャ神殿に祀られていた

神々を美術館に展示しているのと同じ感覚で、ご神像を過去の遺物として取り扱おうとしているのであり、それは決して許されるものではない。

ご神像を礼拝の対象として崇められてきたものの中には精霊が宿る。まさに「物、物にあらざる神の現われ」である。神様は自然だけを造られたのではない。すべてのものの内に神のイノチを觀るのが生長の家の生き方であり、雅宣氏のような唯物論的観点からの偶像崇拜では決していないのである。

●ご神像移設は本部会館取り壊しの宣言

この項の最後に付言するが、このご神像の移設は、これまで明言されなかった本部会館の取り壊しの宣言でもある。

地湧の殿堂として、戦後の生長の家躍進の象徴であった本部会館。そのシンボルであるご神像を移設することは、八ヶ岳への移転と共に原宿の本部会館の解体を意味する。事前に信徒の怒りや悲しみの声を出させないように、巧みにそのことを隠蔽し、ことを進めようとする卑劣な行為であるともいえるのである。



生長の家出現の使命を彫刻んだ七つの燈台

谷口雅宣総裁が、谷口雅春先生の「愛国聖典」をなぜ、絶版にしたかったのか。結局、その「思想」を受け入れることが出来なかったのだということが、今回の11月22日のブログ記事「天孫降臨」とは神意の現成なり」で図らずも露見することとなった。谷口雅宣総裁は言う。

● 天皇信仰の神髓が込められた
「天孫降臨皇御国成就燈」

四、「天孫降臨皇御国成就燈」を
「『日本に天孫制国家を樹立する』などと
解釈することは、全くの誤り」と言う
谷口雅宣総裁に断固反論する！

「『天孫降臨皇御国成就燈』の…正しい解釈をこれからお話ししましょう。この名前は一見、現実の日本国の国威発揚を願った燈台のように思われます。」
どこをどう「一見」すれば、こんな「国威発揚を願った」という見解が出て来るのか。これでは、まるで、「天孫降臨皇御国成就燈」が北朝鮮のミサイル発射と同じ次元に墮してしまっているではないか。驚くべき感覚である。更にこう続く。
「『スメラミクニ』という言葉からは、天皇主権の日本国家の実現を願った燈台のようにも解釈できます。」
なるほど、谷口雅春先生が「七つの燈台」について、その具体的な意味について言及されたものはない。それがないことをいいことに、谷口雅宣総裁は、余りにも身勝手な解釈を弄びすぎてはいまいか。「天孫降臨皇御国成就燈」についての解説はなくとも、「スメラミクニ」「スメラミコト」等であれば、谷口雅春先生は次のようにはっきりとお書きになつていられるからである。
「『天皇』『皇御国』『統べる』『全て』『透きとおる』『澄明』など濁らずに、総てが一つに統一された状態、まだ一切のものが相を現していない状態の声、これが『スー』の声であります」（『古事記と日本国の世界的使命』

「『すー』の本源的声音より、すべての生命は発し、すべての生命はそれに帰一する。日本民族の信仰に於いては、その本源的生命の人格的表現を天皇に於いて見出し、天皇を『すめらみこと』（すべてのミコトの全一^お体であらせられるという意味で）と称し奉^{まう}つた。」（『聖なる理想・国家・国民』186頁）

つまり、「スメラミクニ」という言葉の中に、谷口雅春先生の「中心^{スメロギ}に帰一する」という、所謂^{いわゆる}、天皇信仰^グの神髓^ミが込められているのである。それなのに、どうして谷口雅宣総裁は、「左翼^グ反天皇主義者」がよく使いたがる「天皇主権の日本国家」というようなイデオロギー用語を使用するのであるうか。それによつて谷口雅春先生の^グ天皇信仰^グを貶^{おとし}めたい悪意があるとしたか考えられない。

● 神の御心^{みしん}とは中心^{しん}帰一の神の構図

そして、その極めつけが、「先生が私たちに託された願いは、『天の下ごとく』に神の御心が満ちひろがる世界が来ること」です。『日本に天皇制国

家を樹立する』などと解釈することは、全くの誤りです。あります」という結論なのである。

馬鹿を言つてはいけない。総裁の言葉を借りれば、『天の下ごとく』に神の御心が満ちひろがる世界が来ること』それが即ち『日本に天皇制国家を樹立すること』と同義なのだ。「神の御心」とは何か。「中心帰一の神国の構図」それ以外にないからである。それを具体的に最も表現し得た国家、それが日本なのである。否^{いな}、日本しかないのである。だから、谷口雅春先生は、「日本」をして「真理国家」と言われ、また「神定国家」とまで評して讃仰^{さんぎやう}されたのである。

因^{ちな}みに、『理想世界』誌昭和34年4月号所収の「愛国心と宗教心とは衝突^{しやうとつ}しないか」という論文を読まれたらいい。ここには、谷口雅春先生の日本に対する限らない思いが全編に溢れている。

「吾々が日本の国を、その^グ天皇中心^グの姿に於いて愛するのは、其^そ処^こに、『宇宙意志』（神が日本国の特殊性を、その国の個性ある^グ天皇中心^グの姿においてあらしめることを悦び給うがゆえにこそ…この形態を維持することができたのであって、若^もし、神の御心が、日本の国の形態をかくの如^{ごと}くあることを欲せられない

のであったならば、二千年以上も、斯うした国家形態を維持することができなかつたに相違ないと私たちは考えるのであります。それで「天皇中心」の国家形態を護持することが、神意すなわち「神のみこころ」であると感じるのです。そこに日本に於いては、日本国の「天皇中心」形態を護持することが、宗教心と愛国心とが一致する所以があるのであります。」

● 日本は天授の国であり、 神国不滅、天皇国不滅

また、「聖使命新聞」昭和57年1月号にもかくある。「天皇と云う天授の主権者（天孫降臨・永遠不滅）のあらわれにまします日本国家は、天授であるから滅びるといことがないのである。教育勅語に『皇祖皇宗国を肇むること高遠に徳を樹つること深厚なり』と明治天皇は仰せられた。高遠なる世界即ち実相世界の徳を天授としてそれが天降り給いて皇祖天照大御神地上に天降りまして、『天孫降臨』となったのである。天孫降臨とは地上に天国の種子天降つて、根を張り幹が伸びつつあることである。天孫と

は天照大御神の皇御孫すめみ真子・マコトの御生命）うるわしく地上に生々の氣を延ばし給うことである。それは本当に、実在する天国の降下であるから滅びることはないのである。神国不滅、天皇国不滅である」

このどこをどう読めば、『日本に天皇制国家を樹立する』などと解釈することは、全くの誤りであります』と言えるのか。これは、単なる谷口雅宣総裁の誤読ではない。総裁自身が、総本山の祭祀から「鎮護国家」を外したように、生長の家の教義から「天皇信仰」を外したいが故の、意図的な解釈の改竄なのである。

谷口雅春先生のご生誕日というめでたい席で、しかも総本山に於いて、このように平然と谷口雅春先生の教えを改竄できるとは、驚くべき人である。これを何と評すべきか、俄には言葉が見つからない。ともあれ、大変な人が3代目に就いたということだけは間違いない。これを生長の家の悲劇と言わずして何と言おう。

今回の一連の教団文書、総裁発言をとおして、我々心ある信徒こそが導師のみ教えを正統に受け継ぎ守つていかねば、谷口雅春先生の教えを守れないことを実感した。そのために、我々はさらに純粋な信仰、喜びの信仰に生きぬいていこう。

総本山の祭祀は、「鎮護国家」でなければならない

——谷口雅春先生は誰よりも深く悲しく、涙しておられるに違いない



明星大学戦後教育史研究センター

勝岡 寛次

生長の家総本山は、今後「祭祀の重点を『鎮護国家』から『世界平和』へ移す」のださうである。幾ら何でもこれはひどいと思つてゐたら、或る若い人から「世界平和で何が悪いの？」と逆に問ひ返された。「『世界平和』といふ美辞麗句に隠れ、『鎮護国家』といふ本来の総本山の祭祀の目的を抹殺したことが悪い」と答へておいたが、果してどこまで真意が伝はつたか？

といふわけで、雅春先生の真理のみ教へが今、間違つて説かれてゐることに、若い人にも是非氣付いていただく必要がある。谷口雅宣総裁以下、枕を並べて「鎮護国家」の重大な意義を失念してしまつてゐる今の「生長の家」教団に対して、小生のあやふ

やな知識などではなく、雅春先生ご自身の言葉をもて、それは誤りだといふことを端的に指摘しておく。生長の家総本山とは、長崎にある「龍宮住吉本宮」のことだが、雅春先生は昭和五十年六月十三日、龍宮住吉本宮建立の本義について、次のやうにお説きになつてゐる。

「九州の本山に建てるのは、鎮護国家、国家を鎮護する、国家を安泰に護る——その目的であの住吉本宮といふものは建てる。龍宮から住之江大神の御神威の出現を願つて、この世界を浄化して頂いて、天照大御神の御光を六合に照り徹らして頂く道を開いて頂き、日本国家を千年万年に安泰にする霊的礎を築くために建立する住吉本宮であつて、…端的にいへば、鎮護国家を目的とするお宮であつて住吉大神の御出現をお願ひするための社である。それが

「龍宮住吉本宮」であります。」（『生長の家』昭和五十年九月号）

「住之江大神」とは、生長の家の御本尊である住吉大神のことである。龍宮住吉本宮は「鎮護国家を目的とするお宮」であると明言されてゐる。そしてそれは、大神の本来の使命が「国家鎮護皇国護持」にあるからに他ならない。

昭和五十三年十一月二十一日、龍宮住吉本宮の鎮座祭に当つて、祭主谷口雅春先生は住吉大神に祝詞を奏上されてゐるが、この祝詞においても、以上のことをかやうに明言されてゐる。

「住吉大神を、かく実相世界の秩序に基いて顕斎し奉る所以は、大神の本来の国家鎮護皇国護持の御使命を完全に発動され給はんことを希ひ、日本国土より、すべての妖雲を悉く祓ひ清め、天照大御神の御稜威六合に照り徹りて、神武天皇建国の御理想は実現せられ、八紘は一字となり、万国の民悉くその御徳を中心に仰ぎ奉りて中心帰一、万物調和、永久世界平和の世界を実現せんことを期し奉るがためなり」（『生長の家五十年史』）

このやうに、「世界平和」といふものは、大神の「国家鎮護皇国護持の御使命」が完全に発動され、「天

照大御神の御稜威」が世界中に行き渡り、「神武天皇建国の御理想」たる「八紘一字」が実現された、その結果としての状態を言ふのであつて、「鎮護国家」を捨象した「世界平和」など有り得ない。日本は天皇国であるから、「鎮護国家」の否定は天皇否定に直結する。「世界平和」を呼号するその本音は、国家否定・天皇否定にあることを見逃してはならない。

「天皇はいらぬ」と言ふに至つては、祖国日本に對する反逆ですらある。（中略）『天皇はいらぬ』と云ふ語は明かに精神分析的に言へば『父を殺したいコンプレックス』のあらはれであるが、其処から『祖国に弓を引く心』も出てくるし、『師を殺す心』も出て来る。：愛してゐただけに裏切られたことに對する悲しみも亦強いのである」（『天皇反逆の信仰を悲しむ』、『生長の家』昭和三十年五月号）

これは、或る不肖の弟子に對して、雅春先生が断腸の思ひで書かれた御文章だが、昇天後三十年にも満たぬといふのに、「（祖）父を殺したいコンプレックス」から、「祖国に弓を引く心」「師を殺す心」もて、「鎮護国家」を否定し、「世界平和」を振りかざす不肖の孫に對して、雅春先生は誰よりも深く悲しみ、涙してをられるに違ひないと、私は思ふのである。